

# エコライフ・エコエリアで移住の受け皿を！

# 屋久島移住シンポジウム

## 11月22日(土)開催

日時：11月22日(土) 午後1時半～5時  
13:00 受付開始

会場：日本工業大学神田キャンパス  
3階多目的ホール TEL 03-3511-7591  
東京都千代田区神田神保町2-5 (地図は裏面)  
地下鉄神保町駅A1出口より徒歩1分

内容：

### 第1部 屋久島シンポジウムの報告 13:30～14:00

10月25日屋久島シンポジウムの内容報告  
移住の現状アンケートの結果発表

発表：NPO 法人屋久島移住ネットワーク・緑の風事務局

### 第2部 基調講演 14:00～15:00 (質疑応答の時間もあります)

エコエリア、エコライフによる移住の受け皿モデル(=屋久島モデル)  
づくりを、移住者と共に考える

講演：柴鉄生氏(会社経営、元上屋久町議会議員)

### 第3部 パネルディスカッション 15:15～16:45

屋久島モデルづくりを通して、世界遺産の環境保全と離島の地域活性化  
を考える

出演：柴鉄生、菊池淑廣(屋久島メッセンジャー)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、利根川治夫(ふるさと回帰支援センター)ほか(順不同、敬称略)

参加費：資料代・会場費として1000円

主催：特定非営利活動法人屋久島移住ネットワーク・緑の風

後援：鹿児島県、屋久島町、屋久島町区長連絡協議会、屋久島観光協会、屋久島町商工会、種子屋久農業協同組合、屋久島漁業協同組合、屋久島森林組合、鹿児島県建設業協会屋久島支部、屋久島町文化協会、屋久島環境文化財団、南日本新聞社、ふるさと回帰支援センター

お問合せ・お申込み先：NPO緑の風事務局 TEL 080-5485-1440(杉浦まで)

NPO緑の風は、世界遺産の環境保全と地域発展の両立を、地元と移住者が協力してめざそうと、昨年からの活動を続けています。この秋、屋久島らしい移住の受け皿モデルづくりを進めるため、二度の移住シンポジウムやアンケート等を行ないます。移住シンポジウムや、交流体験ツアーへ、皆様お誘いあわせの上ぜひご参加ください。お待ちしております。



NPO緑の風は、シンポジウムや移住者アンケート、交流体験ツアー(09年1月)等をお手伝いいただけるボランティアスタッフを募集しております。一緒に地域づくりを行なっていただける方、歓迎。島外の方でも大丈夫です。

特定非営利活動法人屋久島移住ネットワーク・緑の風

〒891-4403 鹿児島県熊毛郡屋久島町原914番地 電話 0997-47-3335 FAX 0997-47-2739

メールアドレス midorinokaze@iju.jp ホームページアドレス <http://midorinokaze.iju.jp/>

# 屋久島 滞在・交流体験ツアー

日時：2009年1月17日(土)～20日(火) 参加は2泊以上要

内容：

- 1日目：「西部林道ごみゼロウォーク」など環境学習と、地元交流会
- 2日目：ポンカン・タンカン園での農業体験、畑のオーナー募集、移住相談
- 3日目：自給自足体験(移住体験者のお宅訪問)、西部地区へ民泊などオプション予定
- 4日目：町営団地や島内不動産各社の物件見学、生活体験、リラクゼーションなどオプション予定

3日目、4日目の詳細は12月中旬に決定いたします。参加費は、お1人1万円の予定です。民泊は別途料金。屋久島までの交通費と宿泊費はご本人負担でお願いいたします。

2008年度NPO緑の風の活動予定です。

## 東京でのシンポジウム開催 (詳細は表面)

10月25日屋久島シンポジウムを受けて、移住の受け皿となる「屋久島モデル」づくりを都市で問いかける内容です。移住者受け入れを地域活性化と環境保全につなげ、離島の地域づくりの事例とします。

## 滞在型交流体験ツアーの実施

(1月ツアーの詳細は、NPO緑の風事務局へお尋ねください)

## 移住アンケートの実施

移住者の増加で人口が回復した屋久島の移住の現状を知り、今後の方向性を探るため行ないます。10月、1月の二度のアンケート調査の結果は2月作成の報告書にまとめる予定です。

## 地域コンサルジュの育成

コンサルジュは、相談係や世話焼きという意味です。移住希望者の窓口や相談相手として地域の受け皿となるコンサルジュの人材体制の整備を、地元の方々と相談しながら進めていきます。

そのほかNPO緑の風は東京で、かごしま遊楽館ワークショップやかごしま移住セミナーの活動に参加しています。以上お問い合わせはNPO事務局(担当:杉浦 電話:080-5485-1440)までお願いします。



## 東京シンポジウムの会場案内図



## NPO緑の風よりお願い

団塊世代の地方回帰が進み、全国の自治体は移住者獲得に知恵を競っています。我が屋久島町においても、世界自然遺産の登録地として屋久島らしい移住者受け入れについて考えるときが訪れています。少子高齢化社会に向かういま、島全体で連携して移住者を受け入れ、地域づくりを行なっていく必要があります。各地区の特色を生かした村おこしや、西部地区の過疎化・限界集落化などへの対策を、地元と移住者が協力して実現できればと願っております。

現在私どもは、鹿児島県の「かごしま・くらし」を進める活動支援事業の助成金交付を受け、屋久島町のご協力を賜り、『屋久島移住・交流の受け皿モデルづくり事業』を実施中です。2年目の今年は、昨年度の成果(3回の移住セミナーと体験ツアーを通じて定住者6家族を実現)を継続・発展させて、屋久島と東京でのシンポジウム開催、移住アンケート実施、滞在型交流体験ツアー実施の三つの活動を行なう予定であります。私どもは、太古からの自然と多様な生命と人が共生する屋久島を守り、多様な文化を育み、持続可能な地域経済の発展をめざし、未来の子供たちに受け継ぐ島の地域づくりに今後も励んでまいります。

特定非営利活動法人屋久島移住ネットワーク・緑の風 理事長 富永英男